

## 平成 27 年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校野菜科 1 年

### 1 目的

学生が将来就農や農業生産法人等に就職した際に、生産に加え、時代の変化や状況に応じて、自ら対応し、工夫・改善とともに、身近にあるものを活用しながら、生産し続ける。さらに学生が生産の先にある「消費者に選ばれ、食べる」ことを意識することで、起点となる土作りや播種から、終点の収穫、加工・販売まで、管理や記録等が円滑に行われ、消費者が判断しやすくなるような情報が伝わる工夫を図る。

### 2 実施状況

#### (1) アンケート調査(2回)の実施

ア 野菜のラベル表示の項目や内容等について、市場調査等を実施し、原案を作成した。

イ 学生が、校内販売や店頭販売において、消費者へのアンケートや聞き取りを実施し、求める情報等を把握した。

第1回：平成27年12月13日から平成27年12月26日までの4回

第2回：平成28年2月13日から平成27年3月4日までの4回

※場所は、農大校内販売、セツ島ふるさと物産館、たわわタウン谷山館、タイヨー土日店の4カ所



たわわタウン谷山館にて



#### (2) 校外研修の実施

実際に生産から流通・販売・加工までの現場での考え方や、取組、工夫などの把握とともに、今後の取組につなげるために次の4カ所で研修を行った。

鹿児島青果株式会社、カルビーポテト株式会社、株式会社JA物流かごしま、鹿児島くみあい食品

学生は、立場により求める情報や記録する情報に違いがあることを理解するとともに、生産者として何を記録し、何を表に出した方がよいかを考える機会となった。



カルビー社員による研修

### 3 今後の課題及び取組

実際に販売の先を見据えた生産及び記録方法等を農大で栽培する野菜の生産でやっていくと次の課題が、浮かび上がった。

- (1) トマトなど1回播種、複数回の収穫の作目に比べ、キャベツなど複数回播種、1回収穫の作目は記録シートが、播種回数毎分になり、時間軸をしっかりと把握する必要がある。
- (2) 生産情報等が標記したラベルを野菜に添えて販売することで、本当に消費者の安心・安全の判断につながっているかを検証する。
- (3) 標記ラベルが、野菜の価格形成にどのような影響を与えているのかを検証する。